

優秀賞

私の道

早稲田大学高等学院中学部 1年 齊藤 瑞人

私の心に残る「道」は二年前に家族旅行で訪れたセブ島の道だ。

私の目には壊れかけの家とごみで埋もれた空き地が立ち並んでいる今までに見たことのない道。だがこの道を現地の人々はスコールで浸水したこの道を、ひざまで水につかりながら当たり前のように行き交っていた。

なぜ、この「道」が心に残るものなのかというと、私の考えを変えてくれた「道」だからだ。

初めて目にしたこの道は、私にとってショック以外の何ものでもなかった。整備された道が当たり前だったからだ。だから、そんな道を通ることに怖さすら感じた。そんな私に気づいたからか、その時に乗っていたタクシーの運転手さんが、

「この道すごくきれいでしょ。」

と言い出したのだ。私は驚いた。どういう感覚でこの道をきれいと言っているのだとすら思った。

この道が数年前までゴミであふれ、麻薬をしている人だらけだったが大統領が変わり厳しく取りしまり、道がきれいになったことや子供たちが全員ではないが学校に通っていることを運転手さんが教えてくれた。自分にとってはきれいではない道でも、現地の人にとっては未来ある活気あふれる道なのだと私は思った。

自分の価値観を基準にせず、色々な観点から物事を見ることが大切だとあの道は教えてくれた。また、世界には貧しい国もあり、みんなが衛生的な環境で暮らし、当たり前前に学ぶことができていくわけではないと教えてくれたあの道との出会いは、私にとって宝物だ。あの時から私は心に決めていく。必ず、世界の貧しい環境に暮らす人たちにも寄りそった何かができる人間になりたい。私と世界を結ぶ道を長く、長く造りたい。